

第3期鳥取市中心市街地活性化基本計画(案)にいただいた意見と対応方針

No.	区分	いただいた意見・質問等	対応方針
1	基本方針	今後5年間における新たな状況としてある連携中枢都市圏の形成について、「中心市としての役割が求められている」と書かれているが、実際にどのような役割があり、どのようなことが求められるのかが今のところ明らかにされていない。そのような段階で、計画のあちこちに連携中枢都市圏とからめた記述は不要だと思う。	連携中枢都市圏構想推進要綱では、「人口減少・少子高齢化社会においても、地域を活性化し持続可能なものとし、国民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするために、地域において、相当規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次の都市機能集積・強化」、「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、人口減少・少子高齢化社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することが連携中枢都市圏構想の目的です。」としています。従って、これが、中心市の役割であると言えます。 連携中枢都市圏の中心都市である鳥取市において、総合計画等上位計画において中心市街地を中心拠点と位置付けています。中心市街地、特に交通結節点である駅周辺中心に、都市機能等の集積・強化、拠点性を高めることが必要であり、エリアコンセプト、重点施策等に反映させたいと考えます。
2	テーマ	「人々が集い、つながるとつとりのまち、山陰東部の都市核づくり」なにかさえない。	多くの人々が訪れ、交流することで魅力と活気にあふれるまち、また、幅広い世代の人々が暮らし、交流することで豊かにいきいきと暮らせるまちの実現を目指すとともに、中核市への移行等を見据え、中心市街地の拠点性を高めることを目指すため、このテーマに決定したところです。
3	交流人口の拡大	交流人口の拡大を観光交流に即結びつけるのには違和感がある。 市内中山間地域はもとより鳥取県東部、周辺町も対象であろうし、ビジネス来街者など幅広い交流を促進する考えが必要。	3期計画では、「地域資源等を活かした交流人口の拡大」を目標の一つとして設定しているところですが、観光のみならず、中心市街地の周辺地域の住民等を含めた幅広い交流人口を対象としています。基本計画(案)65ページの目標(1)の説明等わかりにくい部分の表現の修正を検討いたします。
4	エリアコンセプト	駅を軸にという考え方は？ 駅を核や拠点ならわかるが。	駅を中心として、さまざまな機能を集積するという意味で「軸」という言葉を使用させていただきましたが、わかりにくい表現となっておりますので修正を(検討)いたします。
5	経済活力の向上	既存個店の強化とは？	既存事業者の事業拡大や承継を支援し、経営力の強化を図ろうとするものです。
6	経済活力の向上	都市型産業の育成とはどういう内容か？(市全体での都市型産業のイメージはわかるが、中心市街地における都市型産業とは？)	中心市街地においては、事業所数の減少、小売業年間販売額、地価の下落などの現状を見ると経済活力の低下がうかがえます。宿泊業、飲食サービス業、金融保険業、情報通信業、中心市街地に集まる個人消費者や事業者などのニーズに対応した商品・サービスの提供を行う都市型産業の育成により中心市街地の活発な経済活動の促進を図ろうとするものです。
7	その他	駅南口のバスターミナル側のライトアップの色合いについては、センスを疑う時がある。 市の玄関口というのであれば、見直して欲しい。あわせて駅南口のちゃんちゃん傘をモチーフにした屋根のライトが赤や青なのは理解できるが、ちょうど向こうに見えるビルの看板の電色も赤と青で興ざめする。些細なことかもしれないが、センスが問われることだと思う。	ライトアップの色合い等については、市民に親しまれるものとなるよう可能な範囲で改良していきたいと思っております。今後の参考とさせていただきます。

No.	区分	いただいた意見・質問等	対応方針
8	推進にあたっての方針	(1)の2段落目にある行政の取り組みの方針については、「中心市街地ばかり」という受け止めになりはしないか。「まちの郊外化抑制」とはどういうことなのか分からないので、それがわかる計画があるのであれば注釈をつけて欲しい。また、「民間投資を呼び込むための基盤整備」もどうということなのか分からない。事例を示して、イメージできるようにする必要があるのではないか。そうでないと良いのか悪いのかの判断がつかず、白紙委任になってしまうような危惧がある。	63ページ、64ページに記載があるとおり、本市においては中心市街地と生活拠点を有機的に結ぶ「多極ネットワーク型のコンパクトなまちづくり」を進めています。これは、いわゆる一極集中の都市構造ではなく、中心市街地や複数の生活拠点において、医療・福祉、商業等の各施設や住居がまとまって立地し、日常生活に必要な各種サービスが住まい等の身近に存在することで住民が自動車に過度に頼ることなく暮らすことのできる都市形態を目指しています。 「まちの郊外化抑制」に関しては、モータリゼーションの進展やライフスタイルの変化により、商業施設や事業所、居住者が郊外に進出し、中心市街地の賑わいや経済活力が衰退してきました。そこで、本市の中心拠点と位置付けている中心市街地のさまざまな都市機能と居住の集積を図り、コンパクトで効率的な都市運営を目指しています。 また、「民間投資を呼び込むための基盤整備」については、本市の玄関口となる鳥取駅周辺にさまざまな機能の集積を図ることを目指しており、駅の南北の商業施設を結ぶ動線の拡充、人が集まる交流施設の整備などの基盤整備により、民間投資の誘発を図っていくこととしています。 見られる方がイメージしやすくなるよう工夫したいと思います。
9	交通	(2)②の「くる梨」の運行では市役所本庁舎の移転に合わせて運行経路の見直しの予定であるが、その範囲を広げることや、コースを増やすことは回遊性を高めることにつながる。ぜひ、市民の声を聞いて取り組んで欲しい。 自転車の通行量も回遊性を表す指標とするのなら、駐輪スペースのことも考える必要がある。車と違って、市役所の駐輪場に置いて街中を歩く人など皆無に等しい。駐輪場が設けられていないところでは自転車の置き場に困る。場合によっては、安全な通行の妨げになることもあり、検討が必要ではないか。	100円循環バス「くる梨」の運行経路の見直しについては、利用者に対する聞き取り調査など市民の皆さんの意見をお聞きしながら取り組んでいきたいと考えます。 また、駐輪場や道路の整備など自転車が利用しやすい環境の整備に、関係機関と連携をとりながら取り組んでいく必要があると考えています。
10	若年層のまちなか暮らしの促進	「若年層のまちなか暮らしの促進」の指標があるものの、全体的に居住の観点が薄い計画だと思う。中心市街地における少子高齢化や居住人口の減少についての対策が見えない。賑わいをつくる事業で交流人口が増えても、そこで暮らすこととは別である。高齢者になっても住み続けることができる地域なのかという観点からの施策も必要ではないのか。	本計画では、少子高齢化が進展する中心市街地において、地域のコミュニティ機能の低下が懸念される中で、高齢者から子どもまでさまざまな世代が地域において交流し、豊かでいきいきと暮らせることができる中心市街地の形成を目指しています。その中で特に子育て世代を含む若年層の居住者を増やすことが交流の促進につながるという考えでこの目標を設定しています。既存ストック活用居住促進地域連携事業、リノベーションまちづくり事業、まちなか子育て支援事業などを目標達成するための施策として挙げています。
11	その他	製本の仕方だが、あまりにも前半に資料が多すぎ第3期のコアの部分が後ろになっている。できるだけ、前段の資料は資料編の後ろに回した方がよい。	本計画は、内閣府が発行している「中心市街地活性化基本計画認定申請マニュアル」に沿って作成しており、統計的なデータ、市民ニーズの把握・分析を行った上で課題を整理し、基本的方向性につなげるという流れになっています。見られる方がなるべくわかりやすくなるよう、必要なものに絞って整理を行いたいと思います。
12	交流人口の拡大	大学関連をもう少し記述できないか。まちバル3階の公立鳥取環境大学のまちなかキャンパスは、年5000人(小・中・高、大学生、先生、一般)が英語村・環スタなどで多く活用されている。また、学生が主に五臓園や空き店舗活用事業に取り組んでいる。鳥大が拠点をやめると聞いているので、どうかなとも思うが。街中で若者が活動している状況は良いこと。	「若者が活躍できるまち」という視点で、大学との連携等についてもう少し強調したいと考えます。